



# にじのはし幼稚園 園だより



令和3年12月号  
港区立にじのはし幼稚園  
園長 石川典子

2学期も最後の月となりました。12月の教育日数は17日です。短い中にも、にっこ劇場や餅つきなど、お子さんの成長を感じられる行事や子どもたちが日本の伝統を体験する行事などがあります。子どもも大人も楽しい12月になりそうです。

先月のてくてくデー（年中・年長組）は、オリンピック・パラリンピック後、ようやく入ることができるようになった台場公園（第三台場）でした。第三台場は、江戸幕府が黒船来襲に備えて築いた砲台跡です。石垣の土手が築かれ、黒松が植えられ、内側のくぼ地には、陣屋、弾薬庫跡などがあります。高台からは、レインボーブリッジ・近代的なお台場のビル群・東京タワー・高層マンションなど観光名所や都心の景観が見渡せます。現代と過去が共存し、いにしえに思いをはせる魅力的な史跡です。

一角には、年月を掛けて大木になった樹木や様々な草花が茂る森のような場所があります。探検隊気分で歩きながら見上げると、大木の葉の間からわずかに青空が見え、まばゆい光が差し込みます。「果物の木だ」と柑橘の実がたわわに付いている木を見つけて驚き、「花が咲いている」と香りをかぎ、木の幹を手のひらで触って「ゴツゴツしてる」と感触を試していました。迷路のような中でクモの巣を発見し、「大きい、きれい」と光を受けて輝く糸の美しさを感じていました。木の穴に気付くと、「何があるんだろう」不思議に思いながらのぞき込み、しばらく枝で掘りました。

幼児は好奇心を抱いて自然の中に入り、自ら自然に関わり、未知なる世界に対して、体の諸感覚でそれらと対話し、驚きと感動を味わうなど、感覚鋭く様々な感じていました。みずみずしい感性と共に思いを巡らせる時間となりました。

『センス・オブ・ワンダー（神秘さや不思議さに目を見はる感性）』（レイチェル・カーソン著）の一部を紹介します。

「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要でないと思います。子どもたちがである事実の一つ一つが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、様々な情緒やゆたかな感受性は、この種子を育む肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐れみや驚嘆や愛情などの様々な感情がひとたびよびさまされると、次はその対象となるものについてもっと知りたいと思うようになります・・・」

